



～『産後パパ育休制度』をご存じですか～ パパもママも、仕事と育児が両立できる環境づくりへ

積極的に子育てをしたいという男性の希望を実現するとともに、育児や家事の負担を夫婦で分かち合うことは、女性の出産意欲や継続就労の促進、企業全体の働き方改革にもつながります。新たに産後パパ育休制度が創設され、『男性育休』に対する社会的機運が高まる中、今回育児休暇を取得した**安芸市役所勤務の大石さん、頼木さん**にお話を伺いました。

大石さん(32)妻(32)と長女(3)・長男(0)の4人家族

育児休業取得期間は？

長女：44日(育休ほか)
長男：31日(年休ほか)
※育休改正前の取得

育児休業取得のきっかけ

「少なくとも

1ヶ月は安静にすべき」

ということは知っていたので、妻のサポートは必須であると考えていたから。また、できる限り子どもに関わっていきたくて考えていたから。

育児休業取得しての感想

新生児のわが子とふれあう時間がとれたことが単純に嬉しかったです。妻1人に負担をかけ過ぎてしまうことなく(と思っていますが)、苦楽をともにできて良かったです。また育児は、男性でもできると自信がつかしました。

妻からのひとこと

夫とともに育児家事を行い、時間的余裕ができ、自分の時間や寝る時間なども一定確保できました。夫は、出産(立ち合い)も含めて育児の大変さを体感し、復帰しても感謝や労いを欠かさずしてくれます。

育児休業中の苦労はありましたか？

3時間ごとの授乳・ミルクや、夜に限らず長い時間泣き止まない間の抱っこなど、とても1人では体力も気力も持たないと感じました。

これから育休取得を考えている方へメッセージ

人によって様々とは思いますが、取得できる方は間違いなく貴重な時間を過ごせるので、取得するからには、授乳以外は全部するくらいの気持ちで、家族で協力しながら楽しんで育児をしてもらいたいです。



頼木さん(25)妻(26)と長男(0)の3人家族

育児休業取得期間は？

1回目：21日
2回目：28日
計49日



育児休業取得のきっかけ

上司の勧めがあったから。

育児休業取得しての感想

子どもの成長を身近で感じることができて良かったです。自分も育児に参加することで、より子どもへの愛情が強まりました。

妻からのひとこと

パパ育休を取得し、家事や育児のサポートをしてくれたおかげで自分の負担が減り、心に余裕を持って赤ちゃんと接することができました。

育児休業中の苦労はありましたか？

子どもとの意思疎通が難しく、なぜ泣いてるのかわからないことに苦労しました。

これから育休取得を考えている方へメッセージ

子どもの誕生は本当にめでたく嬉しいことですが、育児はとても大変で辛いこともあると思います。夫婦で協力してお互いの負担を軽減し合い、少しでも育児は楽しいと思えるようにすることが大切だと思います。僕も育休を取得して、子どもの成長を間近で見ることができ、妻も喜んでくれたので良かったなと思います。



育児休業制度改正のポイント！

① 新たに『産後パパ育休(出産時育児休業)』制度が創設。

子どもが産まれてすぐの時期に、より育児に参加しやすいようにと新設されました。分割して、2回取得が可能です。

② 育児休業を分割で取得できるようになりました。

たとえば、分割できるようになった育休と、産後パパ育休を使えば最大4回にわけて取得することができます。

③ 1歳以降の育児休業が特別な事情がある場合に限り再取得可能になりました。

【発行元】安芸市企画調整課企画係 ☎35-1012

右のQRコードから過去のバックナンバーをご覧ください。



厚生労働省ホームページで詳しくご覧いただけます。

